

14 シンガポール・シティギャラリー（都市再開発庁）

訪問日：11月19日（月）11：30～12：30

訪問先：シンガポール・シティギャラリー（都市再開発庁）

シンガポール・シティギャラリーは、シンガポールの都市の発展の歴史や街づくりの技術を紹介しているビジターセンターである。シンガポールでは、都市計画の方向性を定めたコンセプトプラン（40-50年スパンの長期計画）に基づき、開発のマスタープラン（10-15年スパンの中期計画）が策定され、それらに基づき都市開発が行われている。プラン策定においては、「港・空港」、「貯水」、「国防」等、加えて、住民の「働く」、「生活する」、「レジャー」といった観点が考慮されている。

ギャラリーは、三階構成になっている。

【LEVEL1】 シンガポール島全景の模型

シティギャラリーは、隣にタワービルが建てられた際に、組み入れられるかたちで一つの建物になった。その際、1区画をビルで占有すると地域住民の移動に支障をきたすので、1階はロビーを吹き抜けにして開放感を高くし、誰でも自由に通行ができるようになっている。そのロビーの一角にギャラリーがあり、シンガポール島全景の模型が表示されている。



シンガポール島模型

【LEVEL2】 シンガポールの一日、市街地中央部の模型

シンガポール市民の生活の様子が、270度に広がる大型スクリーンで流される。市街地中心部の模型が展示されている。

【LEVEL3】 シンガポール都市開発の歴史

シンガポールの国土は、697平方キロメートルとほぼ東京23区と同じサイズであるが、その大きささえも埋め立てにより増えた結果である。しかし、深さが20mを超すと埋め立てコストが一気に上がるため、近年では、岩盤が固く災害が少ないという地域特性を生かして地下の開発が進んでいる。



国土の広がり

また、1950年代から現在に至るまでの歴史をパネル展示してあり、シンガポールの都市開発の歴史がビジュアルで学べるようになっている。1950年代には都市の規制はなかったが、1960年代に都市開発の機運の高まりとともに多数の住宅（HDB住宅）が供給された。1970年代には汚れた川をきれいにしてつつ再開発が行われ、1980年代には、必要なものを残しつつ生活環境を整えるという観点で都市の整備が行われた。



都市の変遷

【文責：佐賀県 江口 健二郎】

15 島内視察（MEIDIYA、マリーナベイサンズ、ガーデンズバイザベイ）

訪問日：11月18日（火）13：30～17：30

訪問先：日系スーパー、MICE・カジノ施設、環境・緑化政策関連施設

1 日系スーパーMEIDIYA（明治屋）の店内視察



MEIDIYAの入口



店舗入口のチラシ（北海道フェア）

所在地はシンガポール市街のショッピングモール（Liang Court Shopping Centre）の地下1階。日本の標準的なスーパーよりも広めの店舗面積。日曜日の昼間ということもあり、客が多く、賑わっていた。日系企業の駐在員らしき家族連れが多く見受けられた。しかしシンガポール人も多く、感覚的には3分の1程度が日本人と思われる。

日本産の農産物も置いてあるが、非常に高い。他国産の2倍以上。（日本産農産物の値段：柿2個 690円、大根1本 420円、水菜1パック 560円）

精肉コーナーでは「鹿児島産黒豚」が大きな一角を占めていた。現地でも「クロブタ」がブランド名として通じるほどに浸透している。鹿児島県は積極的にシンガポールで売り込みをしており、その成果であるとのこと。未開拓の市場に先駆けて進出することの重要性を感じた。

2 MICE・カジノを含む統合リゾート「マリーナベイサンズ」を視察



栈橋からのマリーナベイサンズ



ショッピングモール



広大なコンベンションセンター

57階建てのホテル3棟の上に船状のプールがかかっている特徴的な外観の複合リゾート施設。2,000室以上の客室、12万㎡のコンベンションビル、400以上の商業施設を持つショッピングセンターに加え、地下の広大なカジノなど様々な施設が入っている。

アメリカのラスベガスサンズ社が4,000億ドルを投じて建設したとのこと。

マリーナベイサンズは、シンガポールの象徴であるマーライオン像からマリーナベイ（内海）をはさんだ場所にある。マーライオンとマリーナベイサンズを同時に撮影できる栈橋が整備されており、常時観光客で賑わっている。

3 シンガポールの緑化政策の要所「ガーデンズバイザベイ」を視察



施設の名所：スーパーツリー



クラウドフォレストの人口の滝



空中回廊

マリーナベイサンズのすぐ近くに位置する「大きな植物園テーマパーク」。クラウドフォレストとフラワードームという二つのドーム型植物園を視察した。いずれも広大でゆっくり見れば半日ずつかかるほど見所がある。

①クラウドフォレスト

- ・高さ 35m の人口山・人口滝を設置し、高山の気候を擬似的に再現している
- ・様々な植物が植栽してあり、植物の生態相を学ぶことができる。
- ・屋内施設には温暖化防止を啓発する展示やプロジェクター映像もあり、環境学習にも力を入れている。

②フラワードーム

- ・天井高 45 m、面積 1.2ha の世界最大の柱のない温室（気候によっては冷室になることもある）
- ・バオバブやオリーブなどシンガポールでは本来見られない植物が並んでいる。
- ・太陽光発電や自動的なガラス・遮光カーテンの開閉など、省エネを念頭においた施設となっている。

【文責：北九州市 加藤 雄司】